

化一老樹の石に化一魚蛇蝦蟹皆よく石
となり貞婦の石とあり半松群虫に載る
石疑ふべきにあつんと有り

一薬師神社又月座明神と稱す

勝浦村小あり多神宮別破崎の勅使と云
信薬師といふは信家の薬師仏とたゞり
程なり薬師ハ醫家の名なり日本書紀にも
薬師惠日を大唐へ遣といふ事有り又續日
本紀二十し孝天平宝字二年癸卯に二月
己巳内薬司佑兼山雲国負外掾正六位

上難波薬師奈良等一十一人言奈良等
遠祖德来高麗人歸百濟国昔泊瀬朝倉
朝廷詔百濟国訪求才人爰以德来貢進
聖朝德来立世孫惠日
小治田
朝廷御世被遣大唐学得醫術因号薬師
遂以爲姓云々是亦の又義を以て佛家の
薬師と混むべし

当社に竊にあり銘曰奉納龜鶴所久海之
郡薬師室前延宝七己未八月八日禱持師
諸忌三日所依是日邦を安んず勝寧を共